

研究テーマ

普通教室におけるコンピュータの活用方法 ～「Web 学級日誌」による子どもと学校と教師の変化の考察～

鳥取県教育センター 情報教育課
後期長期研修生 長田 美穂

1. 課題設定の理由

本校の子どもたちを見てみると、他者と関係を取り結ぶために必要なコミュニケーション能力が十分育ってきているとは言い難い。また、学校は「開かれた学校づくり」を進めるための具体的方策の検討段階にある。教師にとっては、子ども一人ひとりの状況や問題をとらえ、指導や支援をしていくための時間の確保も難しい現状にある。これらの課題を「Web 学級日誌」を用いることで、他者との関わりをコンピュータをはじめとする情報機器をつかって行う、保護者への日誌公開による学校の情報発信、日誌を通しての児童の実態把握と支援ができるのではないかと考え、本研究を進めた。

2. 実践

○コンピュータリテラシーの向上

今まで総合的な学習の時間のカリキュラムにおいてコンピュータリテラシーの向上を図ってきたが、十分ではなかった。教室でパソコンを使用して、「Web 学級日誌」を記入することにより、毎日、短時間での使用が継続してできた。コンピュータの基本的操作、キーボードによる文字入力、デジタルカメラの使用にも慣れ、子どもたちにとって、自分のやりたいことやしたいことに使う道具として、新たにパソコンや周辺機器がとらえられるようになったといえる。



○コミュニケーション能力向上

日誌を記入していくことでクラスの友達、教師、そして他のクラス、他校の友達という自分たちの日誌を見る相手意識がもてるようになってきた。そのため、自分本位の記述ではなく、自分の思いや考えを相手によくわかるように、伝わるようにと表すことができるようにかわってきた。自分の思いを伝えようという気持ちが高まると、逆に相手の思いや情報を受け取ろうという気持ちも高まり、自然に相手への興味や関心から、新たな人と関わりを持つようとする気持ちが芽生えてきた。文字を使って、相手とコミュニケーションをとることの楽しさも併せて体感することができた。



○保護者への情報発信

「Web 学級日誌」では毎日の普通の学校生活を子どもたちの目を通した記録によって、具体的に保護者へ発信できる。紙ベースの通信文書に加えて、新たな情報が保護者へ提供されることになり、保護者の学校や子どもに対する関心が高まってくる。よって、教師と保護者がともに、子どもの成長を見守り、連携をとりながら子どもへの支援につなげていくことができるであろう。また日誌に書かれた情報を中心として子どもと保護者の家庭での会話も増えることも期待される。

○児童に対する教師の支援

「Web 学級日誌」では教師だけでなく、子どもを通して客観的にクラスや子どもの実態を日誌によって把握することができる。教師一人では見切れなかったり、一面的な見方でしか見ることができなかったりしたものが、多面的に子どもをみることが可能になってくる。よって、今まで見過ごしてきたような小さな子ども一人一人のよさやがんばりに気づくことができた。そして即座に励ましや、賞賛、評価をすることができた。



またそれらが今後の子どもへの指導や支援の材料として蓄積される。さらに授業に対してのコメントは子どもからの授業に対する評価となり、教師自身の教材研究[わかる授業]に役立てられる。

○鳥取県における「Web 学級日誌」の取り組み

「Web 学級日誌」を通して相手校の情報を普段から得ておくことで学習や交流へのきっかけづくりができる。また、実際の交流学习や共同学習をしていく上での互いの学習進度や途中経過などを子どもも担任もこの日誌をつかって情報交換でき、日常化した交流が積み重ねられる。また、中学校の参加も増えれば、小・中学校の子どものつながりもできてくるであろう。加えて、鳥取県の子どもと教師のネットワーク・つながりを広げていけるものとして有効である。



3. 成果

(子ども) 日誌の記入や他のチームの日誌を見たり、メッセージを送ったりすることを通して、書いて自分の思いをよくわかるように伝えるコミュニケーション能力が付き、人と関わろうとする気持ちも出てきた。人とのつながりが少しずつでき、人と関わることの楽しさや良さを知り、自分の方から相手へと働きかけをする様子が見られるようになった。普通教室にコンピュータを設置し毎日使うことで、コンピュータリテラシーも育ち、情報機器が身近なものとして認識され、活用の自信にもつながった。

(保護者) これまで学校側が提供してきた情報はどうだったのか、そして情報としてどのようなものが求められているのかということを変えて見直すことができた。その願いに答えていくことが学校の使命であり、その一つとして「Web 学級日誌」を公開していくことも一つの効果的な方法となる。

(教師) 教師一人では見切れなかったり、見過ごしてしまったりするようなことをこの日誌で補うこともできる。そして教師の子ども理解を深め、個々にあった適切な指導や支援に生かしていくことができる。

4. 課題

相手意識を一人ひとりの子どもに持たせるための仕掛けとして、どのようなことができるのかを教師が考え、実践していかななくてはならない。また、日誌にかかれたものを題材とした学習の場を設定しての実践を追求していく。学級集団を意識し、友達一人ひとりに目を向けることができるようになってきたりしたことを教師が学級経営にどう組み込み、学級集団作りに大きな効果をもたらす可能性も秘めているのではないかと考えられる。また教室にコンピュータとインターネットができる環境を校内のどの普通教室にも整備していくことも重要である。